

うひはたぶみ (初機踏)

H.A.M.A.木綿庵だより

第83号

2024(令和6)年12月26日

(編集発行 梅田正之 090-5042-7775)

綿繰りにあがる歓声

— 出前授業の教案例として —

綿繰りの季節になりました。木綿庵では収穫した綿花は十分に乾燥させてから、綿繰りは例年10月末頃より始めることを習わしにしています。乾燥が不十分ですと種が柔らかく、ローラー部分をくぐりぬけて種がつぶれてしまう(結果的に繰り綿の中の異物が増える)可能性が高いからです。

ところで、秋は綿にかかわるワークショップの機会が増える時期です。今季はすでに4回実施しましたが、参加者のみなさんから歓声があがるのは糸車による糸紡ぎもさることながら、綿繰り機で種を取り出す作業にも多くの方が関心を示され、「うわあー!」「ええー!」という声が起こります。

小学校の1年生を対象に出前授業をはじめるにあたっては、いつもクイズから入ることにしています。

「みなさんの中にはお肉、焼き肉が好きな人もいます。では、ぎゅうにくって、何の肉かわかる人?」と尋ねると、元気よくハイ、ハイ、ハイと手が挙がります。そこで、「では、知っている人は、大きな声でみんな一緒に答えてね。では、いくよ。せーの、はい!」「うしー!!!」「正解!」。

「では、チキンは?」「とりー!」「にわとり!!!」「正解!」

うしよりは声が小さくなりますが、ここでたいがいみんなのスイッチが入るようです。

「次はちょっと、むずかしいよ。」「ごはんはお米だよ。では、パンは?」「こむぎこー!」。すでに習っているためなのか、パンが小麦粉から作られていることを知っている小学校1年生は意外に多いです。

「次はもっとむずかしいよ。おじさんの着ている真っ白なTシャツ(実物を見せながら)は何でできているのでしょうか?」。おもしろいことに、ここでは答えが混在します。「ぬのー!」「いとー!」の2つです。

「いま、布と糸と、2つの答えが聞こえたけど、これは2つとも正解!なぜかという、Tシャツは布から出来ているけど、その布は糸からできているからです。では、その糸は何でできているか知っているかな? 知っている人は答えてね。いくよ、せーの!」「わたー」。声はかなり小さくなりますが。

「そうだね。おじさんのこのTシャツには、『綿100%』と書いてあります。こっちのラグビージャージには(実物を見せつつ)『COTTON100%』と書いています。」と言いながら、黒板に大きく「綿、COTTON、コットン」と書いて、「これはみんな『わた』のことです。シャツや服には必ずタグというものがついてるので、みなさんもおうちに帰ったら見てみてくださいね」。

このクイズをしてから全員に実綿(みわた。畑で収穫したばかりの綿の実。種が入っている)を一つずつ配り、「それがTシャツのもとだよ。触ると固い粒があるよね。それが種です。種から毛が生えているので、その毛をむしりとして、種だけにしてみてください。」と進めます。ちっちゃな手でみんな一生懸命に取り組んでくれます。これが結構大変な作業であることを体験してもらった上で、「では、これからおじさんが、あっという間に種を取り出してみせるからね。よく見ててよ!」

綿繰り機のローラー部分から種が次々にポロポロと落ちる様子に子どもたちは大興奮です(右写真)。「たぬきの糸車」(光村図書出版の教科書に収載の教材)にかかわる出前授業では、この繰り綿からじんきをつくり、糸紡ぎへと進めます。



----- Monthly Data -----

【天理やまのべ木綿庵】(問い合わせ件数 令和6年11月26日～令和6年12月25日)

東京都1、神奈川県1、愛知県1

【H.A.M.A. 木綿庵】(令和6年11月26日～令和6年12月25日)

メールを含む各種相談件数5、綿畑や作業場の見学を兼ねた事前申込済来庵者数5組17名



《綿の栽培記録 2024》－ 令和6年度版 その9 －

年末恒例の綿木引きを、順次開始しました。まず7号畑の和綿からはじめ、10号畑、11号畑へと進めていきます。写真は12月20日の7号畑の様子です。草刈り機で株元から切り倒し、マルチをはがしてから耕耘します。綿木を切り倒して逆さにしますと、株元付近ではじめていた綿がよく見えるようになります。不作の年にはなりましたが、この時期になってもまだキレイにはじける実があるのも事実です。

写真は12月20日の7号畑の様子。最後に収穫した実綿と、綿木を切り、マルチをはがして耕耘した畝の様子



《草木染め：大和ルージュの乾燥実と穂》 令和6年12月1日(日)

今年3月につづけて、大和ルージュ(赤トウモロコシ)で染めてみました。今回は実と穂の両方を用い、乾燥実700gと乾燥穂200gに水10ℓを加えて1時間煮沸し1番液。濾過した染材に新たに水10ℓを加えて約1時間煮沸し2番液。合わせて染め液とし、草木灰の灰汁で媒染。丸一日浸け込み、水洗い。前処理はディスボン(seiwa)。3月に行った乾燥穂だけによる染色よりは濃い色に染まりました。

写真左から：赤トウモロコシ大和ルージュの乾燥実とその雌穂、煮沸の様子、媒染後の様子、染めたあがったハンカチ



《私立天理小学校にて「たぬきの糸車」出前授業を担当》 令和6年12月9日(月)

1年1,2組において、3,4限目を用いて国語の教科書(光村図書出版)教材「たぬきの糸車」にかかわる出前授業を担当(オモテ面参照)。実綿から手で種を取り出す作業を全員に体験してもらってから綿繰り、綿打ち、じんき巻き、糸紡ぎを実演。最後は全員に1人ずつ糸車を回してもらいました。みなさんとても元気で楽しそうに取り組んでくれましたので、あっという間の40分でした。



【研修等の記録】

- 令和6年12月07日 河内木綿ておりば手紡ぎ手織りの会様の特別展(八尾市)を訪問、見学
- 令和6年12月09日 私立天理小学校(天理市三島町)の1年1,2組で「たぬきの糸車」の出前授業を担当
- 令和6年12月20日 天理市立朝和小学校(天理市成願寺町)にて、1年生のみなさんからリースを頂く
- 令和6年12月22日 天理駅前にて「てんだいフェスタ」に出店。糸紡ぎの実演、スピンドルを販売。